

新型コロナウイルス感染症による生活の変化に関する調査

群馬経済研究所 研究部副部長 樹下芳久

～要 約～

1. 群馬経済研究所が群馬県内の在住者を対象に実施した「新型コロナウイルス感染症による生活の変化に関する」アンケート調査によると、調査対象のほとんどが自身や身近な人への新型コロナウイルスの感染を心配し、41.6%が支出を減らしている。
2. ほとんどの人が政府の掲げた『新しい生活様式』を知っており、これに示された「マスクを着用する」「人との間隔を一定程度空ける」など、いずれかの感染防止策を実施している。『新しい生活様式』が感染防止策の実施を促したと考えられる。
3. 2020 年の 6 月～8 月において、外出を避け、自宅で過ごす時間が前年より「増加した」が 74.3%に達し、自宅で過ごすための支出が「増加した」が 50.3%を占めた。
4. 自宅で過ごす時間の内訳では、「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、インターネットの視聴・購読・閲覧」をはじめ、「家事」「休養・くつろぎ」「趣味・娯楽」「食事」などの時間が増えている。自宅で過ごすための支出では、「食事」「身の回りの用事（入浴、シャワー、洗顔、手洗い、手指消毒、整髪など）」などに関連した支出が増えた。
5. 今後、生活を新型コロナウイルス感染拡大前の状態に戻す条件として、「感染者がほとんど出なくなった場合」「ワクチンの接種が可能となった場合」を挙げる人が多い。
6. こうした条件が揃った場合に、「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、インターネットの視聴・購読・閲覧」「家事」などの時間を元に戻す(減らす)人がみられたが、「分からない」とする回答が 37.6%と多くを占めた。
7. 以上のように、新型コロナウイルス感染症により、県民の生活は大きく変化した、以前の状態に戻るかは、調査を実施した 9 月の時点で不透明な状況である。

キーワード：小売業 サービス業 通信販売 生活時間